



TITLE:

戦後獨逸の大学生數

AUTHOR(S):

岡崎, 文規

CITATION:

岡崎, 文規. 戦後獨逸の大学生數. 經濟論叢 1923, 17(4): 596-598

ISSUE DATE:

1923-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128072>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京 叢論濟經

號四第 卷七十第

行發日一月十年二十正大

論叢

獨身概論……………法學博士 財部 靜治

モン・シンの社會改造哲學及び連帶思想……………文學博士 米田庄太郎

植民地の經濟政策に就きて……………法學博士 山本美越乃

海運に於ける競争と獨占との分界……………法學士 小島昌太郎

時論

震災經濟觀……………法學博士 河田 嗣郎

時局緊急の經濟關係諸勅令……………法學博士 神戸 正雄

說苑

安政の震災と救濟策……………法學士 本庄榮治郎

勞働生産力と勞賃……………經濟學士 森 耕二郎

雜錄

原始的土地所有權の一例……………法學博士 河上 肇

兌換券と物價指數との關係……………經濟學士 蜷川 虎三

戰後獨逸の大学生數……………經濟學士 岡崎 文規

岡崎文規

各學科別大學生數

*) 獨逸なる沙見助教授より惠送せられたる小冊子中の „Der Wechsel der Berufsziele unter den Studenten” の抄譯である。

學	中	都	市	及	學	工	業	專	門	學	校
神學	醫學	哲學	法律學	經濟學	國家學	建築學	土木學	機械學	化學	電氣學	一般科學
二、一六七	四、四四三	四、九三三	二、六二三	二、六二三	二、六二三	二、五四	一、三二九	一、五七七	四、四	三、〇八	八、八
四、九七	一、四三	一、五三四	一、一二五	一、一二五	一、一二五	二、四三	二、二七	二、二六	八、二	六、三	五、六
一、八七六	四、一四六	五、二五二	三、七二八	九、九三	九、九三	八、六四	一、七〇八	四、四七五	一、三四三	一、四四四	一、八四
三、七	九、七	一、三三三	一、一八五	一、一八五	一、一八五	二、五二	二、四三	一、〇七	二、六	二、六二	一、六
一、六五一	三、三六八	四、七九六	三、六三七	二、一三一	二、一三一	七、四	一、三〇三	四、九七五	一、四三二	一、六五五	二、三
二、三	八、九	一、三五	九、九	一、一	一、一	二、二	三、三	九、七六	二、二	八、九	一、〇
一、四四九	二、一六五	四、七七二	四、三七五	四、三七五	四、三七五	六、九	一、四三	五、〇五九	一、四七五	一、七四四	二、七
二、〇	六、九	一、〇六	一、〇六	一、〇六	一、〇六	一、五	一、六八	一、〇五	三、八	五、六	一、七
六、七	七、〇	九、六	一、六七	一、六七	一、六七	二、七三	二、九	三、三一	二、六八	五、六	二、〇
四、二	四、七	七、二	九、七	九、七	九、七	八、九	一、五	八、四	三、九	五、〇	二、〇

大都市大學とは Berlin, Breslau, Halle, Kiel
の諸都市の大學、中都市及び小都市の大學とは

専門學校は Berlin-charlottenburg, Darmstadt, Hannover, Karlsruhe にあつるのみある。舊は

既に入學許可が與へられてゐるもの、新は新に入學を許可されたものである。

右の統計表の示す所によれば、神學科及び醫學科の學生は戰後大いに減少してゐる。一九二四年より見れば約五〇%の減少である。しかもそれは新入學生の場合に一層顯著である。換言

すれば、神學科或は醫學科を新期に志願する學生の減少率が一層甚しいのである。哲學科の學生も減少はしてゐるが、これ程の著しい現象は見られない。これ等と反對に、非常に増加を來たしてゐるのは法律學科及び經濟學科の學生數である。これはベルリン大學に於ては、一九一四年に較べて實に七倍の増加を示してゐる。これと似た増加の現象は工業專門學校に於ても見る事が出来る。

斯くの如く志願者數が學科によつて大なる異同のある原因の一つは、研究の餘暇に内職をなし得るや否やに在るのである。例へば到底、内職をする餘裕のない醫科にあつては學生數が減少してゐるが如き、又、これと反對に、内職が自由である經濟學科及び法律學科にあつては學生數が増加を示してゐるが如きそれである。もう一つの理由は學科そのものの性質に之を求めることが出来る。もつと詳しく言へば、實際生活がより多く需要してゐる學科が繁盛して、それと反對に、餘り役に立ち相もない學科が衰

微する傾向があるのである。例へば神學科に於ける最近の學生數を戰前のそれに比較すると、舊在學生數に於て四〇%内外、新入學生數に於ては實に六〇%内外の激減を示してゐるが如き、また之と反對に、最近の經濟學科學生數は戰前のそれに比較すれば、舊在學生數に於て六〇%、新入學生數に於て四〇%の増加を示せるが如き、或は機械工學に至つては其の數實に八〇%の激増を來たしてゐるが如き、何れもその邊の消息を明らかに語つてゐるものと言はなければならぬ。

この外に、學科別による外國留學生數が掲げられて居たが、その消長は獨逸の學生間に於けるそれとは自から其の性質を異にしてゐるのであるから、私は之に就いては何も説明しないで置く。

